

---

# いつかギラギラする日 / アナーキスト 2

カマ野郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

いつかギリギリする日／アナーキスト2

### 【Nコード】

N4686Z

### 【作者名】

カマ野郎

### 【あらすじ】

4人のアナーキストと4人の女神が廻る運命を変える奇跡の数ヶ月間

運命を変えたいかい？じゃあ、願え、動け、考えろ、戦え。

## 説明（前書き）

頑張ります。

## 説明

アナタハジンセイニ満足してますか？それとも後悔してますか？  
これからやる内容は作者がノリと逝きよいでやるので、路線がずれたりするで気をつけてください。

カオスなことになったりしますそれを踏まえてお読み下さい。

そして文句があるなら感想やらに書き込んでください。

一番上の文字は気にしないで下さい。作者がパニックだったと思います  
い。

いきなりですが、ここに誓いを立てたいと思います。

まず第一、どんなに時間がかかっても物語を書き続けること。

第二、けなされたとしても絶対に諦めない事。

第三、なるべく面白い物語にすることをここに誓います。

何をパクったのかをここに記載する

「攻殻機動隊へTV版」 「男たちの挽歌」 「FF13」 「キャラクター  
ターのみ」 など・・・長くなるのでどここまでにしておきます。

呼んでくれた読者のみなさんありがとうございました。

始まりと終わりに（前書き）

さあ、頑張ろう

## 始まりと終わりに

チャイ「よしやあー！！！！カジキが釣れたあああー！！！！」  
ホーブ「おめでとうございます、チャイさん」

チャ「ホント・・・一週間かけて餌を作り、3日で竿を作りそして・・・」

こ「救援信号を何度か送りやつと2年賭けてやつと組織に送ることができた」

チャ「そうだ、2年も・・・ところで何時から俺の後ろにいるんだ？こーちゃん」

こ「二分前からですよチーフ」

チャ「そうか、わかったそれよりも仕事は終わったのか？」

こ「終わったからここにいますよチーフ、メシにしますよ」

チャ「そうだなハラが減ったら戦は出来ないというし・・・」

こ「へえーそうですか」

チャ「何か、不満でもあるか？」

こ「別にないですけど・・・先に行ってます」

チャ「ああ」

ホ「あ！・・・またシーラカンス釣れちゃいました」

チャ「またかよ、もういいよシーラカンスはもう！150匹目だよ今日で」

ホ「すみません、不甲斐なくて」

チャ「ゴメンゴメン、気にしないでいいから先に行つてくれ」

ホ「ありがとうございます」

ハア「なんでこんなことになったんだけ？」

えーとたしか・・・数ヶ月前に・・・

始まりと終わりに（後書き）

今日こまです

どん吐チャイクライ（前書き）

まあ、面白くなるよう頑張ります



## どん吐チャイクライ

地獄・需要参考人取調室

ルシファー「さつさと吐いてくれねえと、こっちも我慢の限界なんだけどねえ」

チャ「吐いたら解放してくれる？」

ル「考えてやらん事もない」

チャ「わかった吐くよ」

ル「そうか吐くのかそうみたいです監察官殿」

監「そうかそれはいい判断だ4年間待ちどしかったぞクソガキ」

チャ「じゃあ、吐くね」

監「さつさと・・・」

チャ「ゲロオオオオオエー！！！！」

監「クソ！スーツがゲロまみれだ！！クソ！」

ル「すみません」

監「はあ？」ゴン！、パタン

チャ「ウワオ、豪快だね」

ル「そりゃあ、ありがとさんジョン」

どん吐チャイクライ（後書き）

なんか中途半端に

## 脱走（前書き）

書くことないです。

## 脱走

ル「ああ・・・これでオマエと同じになちまったよ、クソ」

チャ「おめでとう」

ル「めでたくねーよ、まったくよなんて悪魔が天使側のスパイを助けなきゃならないんだ」

チャ「昔馴染み・・・ってことで」

ル「まあ・・・地獄の始末屋やつてる時に助けられた借りチャラだからな」

チャ「別にいいけど・・・コレ貰ってもいい？」

ル「ハア！？拷問で頭イかれちまったのか？それは絶対ダメだ」

チャ「なぜ？」

ル「それはなあ神殺しの銃という神やら悪魔など存在を消せる天界と地獄に二挺しかないあぶない銃なんだよ」

チャ「なんでこんな所に置いての？」

ル「それは・・・ジャン負けして俺が持つことになったんだよ」

チャ「ふーん、そんなことよりも後ろ！」

ル「ははーん、そんな手には・・・」

チャ「オラー！！」

ル「あべし！！！！」バタ・・・

チャ「ゴメンな・・・今これが必要なんでね」

数分後

## 脱走（後書き）

以外とうまくできました。

帰還（前書き）

ハアゝン死ぬゝ

## 歸還

ガシャーン！

看守「脱獄じゃあー!!!」

チャ「ヒヤッホー！」

キイイイ  
-!!!!

看守リーダー「迎え撃つぞー！！キサマらー！！！！！！！！」

看「ハイ！」

「お？」

ドン！

「チャ、あ、やべえ轢いちやった」

看守リーダー「おぎゃああああああああああああ」

「チャ・まあ……いいかどのみち地獄だし」

キュルルル〜ブーン！！

この時はまだ、簡単に終わることだと思っていた……

帰還（後書き）

ハアゝ生きるゝ



帰郷（前書き）

イエスウィキャン！

## 帰郷

新浜県新浜市道路

ガシャン！、ドカーン！！！！

肉「クソ！クソ！クソ！クソ！何なんだアイツは！？」

キイイイー！！！！・・・ガチャ！

チャ「何逃げようとしているのかなあゝ肉島君？」

肉「あのよう・・・あんたは何か勘違いしてねえか？」

チャ「・・・」

肉「俺はただ言われた通り総理になって公安の連中をクビにしてあのクソアマを・・・」

ガン！ガン！ガン！ガン！ガン！ガン！

肉「ゴボ！・・・オガア・・・」

チャ「オマエに良いことを教えてやるよ」

肉「・・・？」

チャ「公安9課を解散させたことは許そう・・・でもな、少佐のこ  
とを・・・」

チャ「クソアマと罵る奴には・・・八つ裂きにすることに決めたんだよね」

肉「ちょ・・・」

チャ「今から俺がオマエの耳を切り落とすし鼻をへし折り瞳を切り裂くまでに5秒ぐらいの猶予がある」

チャ「そこで、オマエに出来ることといえば祈りながら何が起きているのかを言うことと黙って神に祈ることだけだ」

肉「どっちにすればいいですか・・・？」

チャ「テメエで決めろ」

## 帰郷（後書き）

今日は盲くいった。

後始末（前書き）

花火ファイヤー――

## 後始末

数分後

すうー、ふーん・・・

ダ「で、君何話したの肉島君？」

肉「えーとそのー」

ダ「まあ君のおかげで我々の計画は順調に進んでいることだし何を洩らしても問題ないけどねえー」

肉「・・・全部洩らしてしまいました」

ダ「何の？」

肉「計画の全容を・・・」

ダ「へえーそう別にいいよ」

肉「え！？なぜですか？」

ダ「だってキミ、口軽そうなんだもんーだから半分ニセの情報ををキミに吹き込んだの」

肉「そうなんすか・・・」

ダ「おもしろいことにそんなどうしようもないキミが総理になってこのセカイの社会をひっかき回したおかげで公安9課が動いて女神の捕獲手早く済んだ」

肉「それは・・・」

ダ「それよりさあ」

肉「ハイ？」

ダ「生肉と焼肉どっちが好き？」

肉「え？」

ダ「おれはねえー生肉の方が好きなんだよねえー」

肉「私は・・・焼・・・」

ビューワァー！！！！！！

## 後始末（後書き）

肉「ぎゃあああー!!!」

ダ「ゴメンねもう、キミいらないからもう退場」

部下「これからどうします?」

ダ「女神たちとその息子が1人そろったから要らない奴全員消えてもらおう」

部「そうですか・・・わかりました」

搜索(前書き)

やうてやろつぜ

## 搜索

病院受付

看護師「ですからあの〱その人は退院しています」

チャ「ホントに？」

看護師「本当です」

チャ「じゃあ担当した医師は？どこの部屋で入院してたの？ねえねえねえ？？」

看護師「・・・あ！院長！？」

院長「どうしたのかね？」

看護師「この子が、やたらと患者さんの所在を聞いてきて・・・」  
チャ「・・・」

院長「あゝキミか！なんだ」

看護師「え！？知り合いですか？」

院長「友人の息子だ。たぶん、父親が退院したという情報を知らされるのが遅くてここに來たのだろう」

看護師「でも・・・」

院長「いいからいいから、後は私に任して君は通常業務に戻りなさい」

看護師「でも・・・」

院長「いいから戻りなさいいいね？」

看護師「わかりました・・・戻ります」

院長「そうか、じゃあ行こうか・・・ボク」

チャ「ああ、行きましようおじさん」

院長室

力チャ！！



## 搜索（後書き）

チャ「やっぱ・・・そういうことか・・・」

院長「フフフフゝまさか‘女神の息子’にお目にかかれるとは私にもツキがまわってきたようだ」

チャ「へえゝそう呼ばれてんだ・・・ところで課長の居場所知ってる？」

院長「ああ、知ってるともそれを知る前に君は我々の計画に参加してもらおう」



## 対話

チャ「計画・・・ああ、あの訳のわからない計画？」

院長「フッフッフ・・・君にとってはわけのわからない計画かもしれないが私たちにしたらかなり重要な計画なんだよ」

チャ「だから、9課を解散させ少佐を拉致してわけのわからん実験を行い入信した人たちをマインドコントロールしたわけか」

院長「クククク、幸せになればまずと誘い後はいろいろと吹き込んで社会に不信感を抱かせ後は・・・まあ、言わなくても分かるだろう？」

チャ「『調教』だな？」

院長「男だろうと女だろうと薬漬けにしたり揺さ振りをかけたりすれば後はカンタンだ」

チャ「へえゝそうか大変不愉快な話だ」

院長「そうかもっと不愉快な話をしてやろう、なぜ9課が解散されたと思う？」

チャ「さあ、わかんねえゝなあ・・・」

院長「あいつが私達がやってきたことを全否定しやがったんだ」

チャ「あいつ・・・少佐のことか？」

院長「ハハハハ、あいつそんな名なのか？」

チャ「いや、呼び名みたいなモノだ」

院長「じゃあ、本名はなんだ？」

チャ「その前になんて言われたんだ？」

院長「『自分を変えられない奴が神になれるか』だとう」

チャ「へへへ・・・ざまあみろ」

院長「おいおい、まだ話に続きがあるんだよ聞くか？」

チャ「・・・もういいよ」

## 対話（後書き）

また、延びた――！！！！！！！！

デイドクター（前書き）

クソ！書いた奴が消えた！

## ディアドクター

院長「おいおい、君が聞きたいと言ったから話っているんだ最後まで聞けよ」

チャ「はあゝわかった、わかった、勝手にしてくれ」

院長「あいつ・・・いやあの女が我々の『聖なる撃鉄』を全否定した後、何が起きたと思う？」

チャ「知るか？」

院長「『あの人』が現れ、女を捕らえたその後『あの人』は『聖なる言葉』を述べた」

チャ「あの人？聖なる言葉？聖なる撃鉄？何じゃそりゃ」

院長「今は意味がわからなくてもいずれ来る『審判の日』にはわかるよ、『女神の息子』よ」

チャ「ホントお前らの目的がわけ分らない」

院長「フッフッフッフ・・・君にとっては理解に苦しむことも知れんが我々にとつては重大な意味を持つモノなのだよ」

チャ「もういいから、聖なる言葉やらを教えてくれ」

院長「『この聖女は義体だ。我々の計画にとつて都合のいい事だが、この者の脳と魂がダメだそこでだみなさん、この聖女を女神にするために私の血肉を与えようと思ういいかな？』」

チャ「血肉を与える・・・まさか・・・！！」

院長「ヒyahはハハハハゝ半不死者にしたのだよ」

チャ「テメエ・・・！！！！」

院長「いやはや・・・君の弱点を聞いておいてよかったよ」

院長「まあ・・・そんなに力リ力リするなよまだ話の続きがあるんだから」

チャ「・・・」

院長「その後は大変愉快だったまず頭に我々が造ったマイクロマシンを植付け記憶やゴーストなどを弄り廻し、後は堕ちるまで調教パ―ティよそれと・・・」

院長「お前の個を知っている」とななんと吹き込んだり過去のことを何度もエグったりしたな」

院長「本当に堕ちる時は堕ちたなゝまさか、あそこまでするとは思わなかったなあ」

院長「まるで本物の豚よりぶた・・・」

バキッ！！ドバー！！！！ガタンゴロロロ・・・ガン！！！！

院長「キサマ・・・！！！！」

チャ「どうした？さっきまでの威勢はどうした？」

チャ「さあ・・・ヨタ話の続きを聞かしてくれ」

院長「話たくない、もうこの話は・・・」

ドカ！バキ！グシャ！

院長「・・・」

チャ「話せ、お前らが知ってきたことを全部！」

院長「クククク、話題を変えよう・・・なぜ9課が解散したのかについて」

院長「それはなあ・・・お前がいたのがいけないんだ」

チャ「どういう意味だ？」

院長「『あの人』はお前のことが大嫌いで、お前の人生を無茶苦茶にしてやろうと9課連中に優先を決めたんだ」

チャ「そんな・・・」

院長「そんなに驚くことか？あの方は気に入らない奴がいればその家族や友人とその家族、仕舞いにはたまたま知り合った奴まで殺すような御方だ」

院長「ああ、今でもあまりの素晴らしさで9課の連中の人生を無茶苦茶にする瞬間が頭にこびり付いてるよあれば大変愉快だったまづ・・・」

院長「トグサと呼ばれる男の家庭をブツ壊してやった」

院長「あいつの電腦にコンピューターウイルスを送り込んで精神的に追い詰めた後、暮らしてる近所に

大量のデマな情報ばら撒いて娘は学校で虐められるよう仕向けたり」

院長「特にひどかったのは妻がなくなっなんていったって一日400000通モノ意味不明な手紙に豹変した夫、娘の学校問題にそれに・・・」

院長「親戚の家や自分暮らして所が爆発したり放火されたりしたらもういっしょに暮らせなくなるよなあ？ひやははははは！！！！」

院長「ホント、離婚するまで過程が面白かったぜ！！ははははは・・・」

バンバンバンバンバン・・・カタン、コロコロ・・・

チャ「お前の話は大変不愉快だったから、最後まで聞くに聞けなかったよクソ野郎」

チャ「地獄で永遠にしゃべり続けなまあ・・・誰も聞かないと思うが」

チャ「じゃな、最低野郎俺はここを立ち去るから次会うときはもう少しマシな話を考えておいてくれ」

チャ「それでも・・・聞きたくはないがな2度と」



ディアドクター（後書き）

ヤベエ・・・原作レイプ・・・しちまった  
それと長くなってしまった

過去（前書き）

成るがままに。

## 過去

運命は時として残酷な時がある

知りたくもないことを知ったり、死んでほしくない相手が死んだりなど。

俺はその瞬間をなんとも見てきた・・・

コイツたぶん死ぬなあ〜と口にだしただけで3日後に交通事故で実際に死んだ友達もいた

俺には不死者になる前からあった力だ

未来を予知する能力・・・日常にあつたらぶっちゃけ邪魔ではない。

何故なら人の死ぬ未来しか見れないから・・・

それが　の発言なのだまあ簡単と言ってしまった俺も悪いのだがそれを知っていて止めない父親も悪いかも知れない。

父親は俺の力を悪い方向に使おうとしただが、未来を見るしかできない力に人の人生を変える力を持つわけもなく・・・ただ、人の死ぬ瞬間しか見れず何時ごろ死ぬのかわからない力に父親は勝手に絶望し。

母親と妹と弟を惨殺しその罪を俺に擦り着けた。

だが、俺がたまたま暮らしていた場所がマイアミでホレイシヨ・ケイン率いるCS?によって真相が明るみになり父親は終身刑になり永遠にブタ箱送りになった。

ホレイシヨことチーフは捜査中俺のことを気にかけてくれて、CS

？のみんなも俺のことを「9歳の子供」として見てくれた・・・初めてだったあんなにも親身になってくれたりヒトとして扱われることが。

まえば、ヒステリックな母親と俺の力を悪用使用と考える父親に俺の「力」を知り「バケモノ」と罵る

同じクラスの子たちに腫れ物のように扱う教師たち・・・そして「力」を恐れて見て見ぬフリをする大人達

どうしようもない奴ばかりだったが、妹と弟は俺のこと「お兄ちゃん」と慕い人して見てくれてた

だから父親の結うことに従うことができた・・・だがもう2人はいない。

父親によって2人を奪われ、罪を擦り着けられそして誰も庇ってくれず弁護士も検事どもも

誰も庇ってくれなかった・・・

俺には「絶望」二文字しかないと思っていたがそんな中でCS？のみんなと知り合うことができたのだ

俺は彼らによって生きる希望を見つけることができ、彼らの役に立ちたくて何かできないかと

なんやんでいる時に運命の出会いを果たしたそれが・・・LSDとラッキースカイダイヤモンドを率いるレイヴンさんと会ったんだ。

その人は前世の息子である「ホープ」という男の子を連れCS？の本部に来ていた。

どうやら、俺のことを必要していることがわかっただから、役に立つのならという想いで入ることにした。

それからというもの・・・「ホープ」と共に人を殺す技術や人ならざる者たちとの戦い方を身に着ける

と同時に‘力’のパワーを研ぐことにした

そのおかげで精神と魂を鍛えることが出来た、それと‘ホープ’という名の弟分ができた

ホープは俺のこと‘お兄ちゃん’と慕ってくれた過去に戻った様で心地よかった

気付けば・・・CS？のみんなと共に数々の事件に戦いを挑み、チーフと共に現場で犯罪者やマフィアを血祭りに挙げそれと同時にLSDの捜査官としていろんなセカイの問題に立ち向かっていた

ついたあだ名は‘サタンより恐ろしい少年’と名づけられた因みにホープに名づけられた渾名は‘2代目フランク・キャッスル’だったこの頃から使ってた銃は元凄腕CT？捜査官で今はLSD銃器コンサルタントのジャック・バウアーさんから貰った‘USPコンパクト’で、チーフから誕生日プレゼントとして貰った‘サングラス’今で二つは大事に使用しているこの頃はまだ・・・幸せだっただが、ここから運命が狂った。

副社長をやっていたダブルDによって俺は撃たれ、チーフやCS？みんなを次々と殺していき

仕舞いには自分の元嫁にあたるレイヴンさんに瀕死の重体に負わせ、元息子であるホープをレイプし

無理矢理‘完全なる不死者’にした・・・

この頃からアイツの中で‘計画’が始動していたのかもしれない俺は意識不明のまま、副社長代理を勤めいていた‘ケビンさん’によって別のセカイに輸送されていた

目覚めたら・・・瓦礫の中だったのその中で女の子の声と男の子の声が聞こえ探してみると・・・

瀕死の状態の子供2人を見つけ彼らを背負い瓦礫の中を飛び出したそこから・・・あまり覚えていないが折鶴を折った所まで覚えている一世年も生きたら記憶が曖昧になり困る

また、思い出したらこの話をしよう。

## 過去（後書き）

もう、長すぎてなに書いてたのか忘れかけているので、  
回想編は書ける時に書きます。  
本編は真面目にやりますので。

## 拷問（前書き）

本当に難しい小説とは捻じ切れるほど面白いモノだと思う。

## 拷問

倉庫

ダ「おーい、起きろ」

チャ「う．．．なんだ？」

ダ「お久しぶりです」チャイ君

チャ「久しぶり、クソ野郎」

ダ「ほほう」口が汚いねエチャイ君「そんな子には口を綺麗にしないとねえ．．．」

チャ「はあ？」

キュイイイイイイイイイ！！！！！！！

ガガガガガガ．．．ゴボ、ゴボ！ブシャ！！

チャ「オゲエ．．．グボア．．．はあ、はあ」

ダ「イタイ？」

チャ「イツダいつて、もんっじゃね、エ．．．」

ダ「ゴメン、聞こえない」

キュイイイイ．．．ガッガガガガ！！！！！！！！

チャ「ギヤああア！アガアアー！！！！」

ダ「ヒヤハハハ．．．！！！！！！以外と人の体って脆いねえ」まあどの道再生するけどねえ」

チャ「テメエ．．．相変わらず反吐がでるぜ」

ダ「え？なんて？？」

カチ、ジヨボー！！！！！！



チャ「今度はガスバーナーかよ・・・」

ダ「左手首をドリルで切り落としちゃったからねエ止血しないと、  
思って」

ポタ、ポタ、ポタ、ポタ・・・

チャ「余計なお世話だ、バカ」

ダ「ゴメン、良く聞こえなかった」

ジュゥ!!!!

チャ「アギヤー!!!!!!アガッ!!!!!!」

ダ「あのさあ・・・質問してもいいかな？」

チャ「なんだ・・・」

ダ「肉島君といんちよーを殺したのは君かな？」

チャ「状況からしてそうだろ？滅茶苦茶になった院長室で座って  
いる俺以外いたか？」

ダ「ごもつとも」

ジュボー!!!!!!ジュウウウゥ

チャ「あぎゃああああ!!!!!!」

ダ「ありやりやゝ今度は右目が潰れちゃったねエ・・・」

チャ「クソたれ・・・」

ダ「ハハハハ」

チヨキチヨキチヨキ・・・ザクッ!!!!

チャ「ああ、チクシヨ・・・」

ダ「ホント公安9課といいお前といいLSDとホープといいなんで  
口が堅いだよ」

チャ「仲間は裏切れねエ・・・」

ダ「耳削がれたりドリルで腹に穴を空けられたり目玉を焼かれたり左手首を斬られてもか？」

チャ「ああ」

ダ「CS?の連中もそうだったなあゝ全然口を割らなかったなあゝ」

チャ「ざまあ、ミロ」

ジュボー「!!!!ジュウウウウ」

チャ「アガ・・・くう・・・」

ダ「おお、耐えてる耐えてる・・・強くしよう」

ジュボー「!!!!!!!!ジュー!!!!!!」

チャ「アギヤー!!!!!!」

ダ「あのさあ・・・勝手に死んだ2人から何聞いたの？」

チャ「誰が言うか」

ダ「ヘエゝそう・・・まだ、庇うんだ9課の皆さん方を」

チャ「だから、裏切らないし9課は関係ないだろう!!」

ダ「俺は9課のこともっと知りたいなあゝと思っただけなのに・・・」  
「

チャ「とんだストーカー野郎だな・・・お前・・・」

ダ「ありがとう 褒めてくれて      その期待どつりに・・・」  
ザー・・・

ダ「9課の皆さん方とオマケで我がかつての息子で現LSD社長のホープの遺体と我がかつての義理の娘で今はホープの保護者兼恋のライトニングの遺体をいれてなんと・・・」

ダ「チャイ君の耳と9課の情報を教えるだけで買い取ることが出来  
ます」

「チャ・テムエー!!!!!!!!!!!!!!」

「ダ、ギャハハハハハ！！お前が絶対仲間を裏切らないとわかって  
いたからそれならお前が大切に思っている物を全て破壊して無理矢  
理吐かした方がいいかなあ」と思いました」

「まあ、ぶちやけあの二人の情報も『女神』も『女神の息子』もいらなくてただお前に対する嫌がらせ程度だからゴメンねエーそれと」

「ダ、信者たちは金づるでお前が最初に出来た友達、クゼ」は豚の餌  
 になっ  
 ているのでそこそこヨロシク……！」

「お前……クゼまで殺しちゃったのか？」

「ダ・うん．．．だって『女神』が愛した男でお前の初めてのこのセカイで知り合った友達だろう？殺しておかないでどうする？」

「チャ、なんでそこまでできるんだ……」

「だってお前がタチコマの運命を変えるために核ミサイルに特攻仕掛けて消滅して地獄に堕ちたと」

知ったら、そりゃあこのセカイを無茶苦茶にしなきゃならんだろう？」

チャ「じゃあ……つまり……」

「そう、今回のコレは全部お前が消えたからこうなったってわけ」

「ダ、アレアレ？何にも言えなくなっちゃったの？ボク？」

チャ「弁解のよちもない・・・俺には」  
ダ「だよねーじゃあ死のうか？」

チャ「ああ、殺してくれ・・・」

ダ「わかったー」カツチカチガチン！

ダ「バイバイーヒーローさん・・・」

バリン！！ドーン！！！！

ダ「お？」

部下「襲撃です、教祖様！！」

ダ「マジで？」

部下「マジです」

## 拷問（後書き）

長いけど、面白くなっているかな？  
なっているといいなあ

救出（前書き）

やっと物語が進みだした

## 救出

ダ「アームスーツでもまだ、生きてるか？」

部下「いえ・・・全滅しました」

ダ「やつぱダメだったかゝじゃあ逃げるぞ、準備しろ」

部下「はい、わかりました急いで、準備します」

ブス、チュ・・・

チャ「それなんだ？」

ダ「まあ、ちよつと麻酔薬みたいなモノだから気にするな」

チャ「へえ・・・そうな・・・」

ダ「ホントはハブの毒素を凝縮した毒薬なんだけどねゝ」

？「チャイ！」

ダ「あれ？キミ死んだはずじゃなかったけ？」

？「その手を放して手を挙げる」

ダ「アレレレ？？？確かキミ、俺がキチンと殺したはずなんだけどな・・・」

？「そんな戯言言う前にチャイに何をした？」

ダ「ヒドイなゝあんなことやこんなことした仲なのにゝ」

シュ！グチャッ！！

ダ「イタタタ・・・相変わらずいいモンもってるぜ」

？「いいから、質問に答えろ」

ダ「別にいいけどさあ・・・こんなことしてるヒマアイツにはもうないと思うけどなあゝ」

？「それはどう・・・」

ダ「そのままの意味だよ、モトコちゃん」

ババババ！！！！カン！カン！

ダ「ヒヤハハハハ！！！！まだまだ詰めが甘いぜモトコちゃん！次は期待して待つてるぞゝ」

ドカーン！！！！！！

草薙素子「チツ・・・」

バトー「大丈夫か！少佐」

少佐「大丈夫だ！それよりもチャイを見つけた！！医療班を呼べ！」

バトー「了解！！」

数時間後・・・

医療班「医療班の情事くるーにーだ！患者の容態はどうだ！」

少佐「来るのが遅いぞ！」

情事「そんなことは今は関係ない！患者の容態を言え！このメスゴリラー！！」

少佐「重体だ！さつさと治療しろ！！」

情事「無理だ！急いでERに連れて行くぞ！！」

トグサ「そんな所、何所にある！！」

情事「ワタシのセカイにある！！！！！！！！」

バトー「そんな時間ねえだろう！」

情事「大丈夫だ！1時間で辿り着ければ助かる見込みはある！！」

少佐「わかった！死ぬ前にさつさと連れて行くぞ！！」

バトー「おい、でも・・・」

少佐「今はコイツに賭けてにみるしかない・・・運ぶぞ！！」

バトー「・・・了解」

4時間後・・・

チャ「ゴホ・・・オエ・・・」

ポタポタ・・・

一同「どこが一時間なんだー！！！！！！！！」

情事「すまない、方向オンチだったこと忘れていた・・・誠に申し訳ない」

少佐「早く治療をしろ！」

情事「わかった、全力であたらしてもらうよ」



パズ「もし・・・助からなかったらただでは済まないと思え・・・」  
情事「はは、これから先はワタシの本領発揮だ！！はははは！」  
トグサ「アイツ大丈夫かな？ダンナ・・・」  
バトー「オレにもわからん・・・」

## 救出（後書き）

ヤベエ・・・コメディになってしまった・・・それも笑えるかどうか分からないヤツだ・・・

余談

情事くるーにー先生はただの不死者研究家で、ERに入れたのはコネ。

しかも、作中に出てくるオリジナルとオマーシユキャラクターよろしく

変態野郎です

80% (前書き)

ハンゲリー・・・

80%

ER 特別待合室

バトー「……」

トグサ「……」

パズ「……」

サイトー「……」

イシカワ「……」

草薙素子「……」

ドン！

情事くるーに「……」

バトー「ど……」

情事「成功！……だが」

トグサ「だが？」

情事「意識が戻らないとか？ 戻るとか？」

バトー「どつちなんだよ！！」

情事「戻る20%戻らない80%だから……」

イシカワ「ほぼ戻らねえじゃねえかー！！」

情事「でもでも、目覚める可能性も20%ともあることだしねえ？」

トグサ「そうかもしれないけどな、目覚めない可能性の方がかなりあるだろうが！」

情事「そんなに責めるなよ！ しょうがないだろう！ 医師にもミスする時もあるさあー！！」

バトー「なんで逆切れするんだよー！！」

パズ「死ぬ覚悟は来ているか？」

情事「オマエ、やっと口を開いたと思ったたらそれかよ！もういい！」

カチャ！

バトー「てめえ・・・」

情事「全員、動くなあゝ動いたらこのオンナが死ぬぞ」  
少佐「何のマネだ？」

情事「どうせ死ぬならアンタみたいなベツピンさんと死ぬほうがマシだ！！」

トグサ「お前、それでも・・・」

？「止めておけ」

イシカワ「誰だ？」

浩太「落合・・・浩太、現LSD副社長兼第一級LSD暗殺者・・・  
何か文句でもあるか？」

サイトー「LSD・・・副社長？」

浩太「そうだ・・・文句はないよな？」

バトー「何もねえけど」

浩太「そうか・・・ではチャチャット済ませよう・・・」

## 80%（後書き）

なんか、サスペンスなのかコメディなのかわからなくなってきました。

いろいろとカオスです。

作品も作者の頭の中も・・・

復活？（前書き）

アイアムハングリー！！！！

復活？

情事くるーりー「なぜ、この場所が・・・」

浩太「おいおいＬＳＤの監視システムを舐めるなどんなセカイに居ようとお前を見つけれらるんだからな」

情事「クソ！テキサスで1日40000回も女を襲うんじゃないの？」

バトー「スツゲエ・・・」

浩太「今更後悔しても遅い。『死刑確定だ』オマエは」

情事「クソ・・・ツイテネエ！二つのグループから命を狙われるとはなぜこんなことに？」

トグサ「それは、お前の行動が・・・」

情事「俺は悪くない！俺の研究を認めない世の中がいけないだあー！！！！！！」

ベキツ！！シュツ！ガタン！！

チャイと少佐「世の中に不満があるなら自分を変えろ！！それが嫌なら、耳と目を閉じ、口をつぐんで孤独に暮らせ！！それもできないなら・・・」

カチャツ！

情事「ヒイイイ！許してください！後世ですから・・・」

チャイ「少佐、コイツ誰？」

少佐「自称スゴ腕のＬＳＤ医療スタッフだそうだが、見覚えある？」

チャイ「いや、ないや・・・どこで知り合ったの？」



少佐「私達のセカイのLSD支部だ」

チャイ「へえ・・・そうじゃあ、たぶん君達を殺そうと仕掛けてきた‘奴等’のスパイかもしれないから殺すね」

少佐「話を聞かなくてもいいの？」

チャイ「聞くほどの話も・・・」

バリン！

チャイ「今度はなんだ？」

ランニングリビングデッド「ガルルル・・・」

チャイ「ホント今日は拷問されるは、死んだと思っていた仲間達と再会するは、意識不明されるはワケ分からんヤツに命を救われるは仕舞いには・・・」

ランニングリビングデッド「ウガー！！！！！！」

チャイ「ゾンビ襲撃・・・ツイているのかツイていないのかわからなくなってきた」

少佐「逃げるぞ、チャイ！！」

チャイ「その前にコイツを・・・」

ぐちゃぐちゃ、ベキ！ベキ！

情事「助けてくれー！！！！」

ランニングリビングデッド「あうくチャクチャ」

チャイ「もう、なんなんだよ」

復活？（後書き）

力才入なことに・・・

アウトブレイク？（前書き）

書くことないです

## アウトブレイク？

ER正面入り口

？「ありやありやこりやあやバイねえシンジさん」

シンジさん「やばいってレベル通り越して、こっちの身もあぶなくなってきましたけど」

？「大丈夫大丈夫どうせ『不死者』だから死なない死なない」

シンジさん「それよりも早く人々を助けないとまた、『始末書』書くハメになりますよジョセフさん」

ジョセフさん「ああ、あまりの世紀末プリに見取れちまってたそろそろ仕事しないとヤバイな」

シンジ「ヤバイってレベル越えていますよ」

ジョセフ「メキシコの西側の麻薬戦争を思い出しちまった」

シンジ「たしかに・・・でもこちらの方が酷い」

ジョセフ「当たり前だ、なんて言っただって、『ゾンビアウトブレイク』・・・死人が人を喰らうんだしかも感染したら同じことの繰り返し」

シンジ「じゃあこのセカイを封鎖しないと・・・」

ジョセフ「ははははだから、奴等と呼んであるんだ」

シンジ「奴等？」

キイイー！！！！ドン！カタン、タッタタタタ・・・

特殊洗淨部隊「特殊洗淨部隊だ！！！！今からこのセカイを封鎖する！！文句あるヤツは出て来い！」

通行人「キヤー！！！！！」

ランニングリビンゲデッド「ウガー！！！！！」

シンジ「ああ、なるほど」

ジョセフ「こういう時にコソ役に立つ『特殊洗淨部隊』ここは奴等に任して中に突入しよう」

シンジ「そうですね、ジョセフさんそれよりも得物はもってきてましたか？」

ジョセフ「ああ・・・スパス１２とグロック２６だシンジさんアンタは？」

シンジ「ミニミ軽機関銃とデザートイーグルですさあ、行きましようジョセフさん」

ジョセフ「だな」

## アウトブレイク？（後書き）

ジョセフは前作から性格が少しチャラけております。  
その理由は本編で明らかになるといいですね

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4686z/>

---

いつかギラギラする日 / アナーキスト 2

2012年1月10日22時46分発行